

平成27年8月 定例記者会見資料

『龍ヶ崎市 市民防災フェア2015』

～消防団・陸上自衛隊・国土交通省等の新規訓練実施で更なる相互連携強化～

1 開講期間	平成27年8月23日(日) 午前8時15分～正午
2 場 所	龍ヶ崎市川原代町33-1 国土交通省牛久沼排水機場地先 小貝川市民運動公園
3 主 催	龍ヶ崎市・龍ヶ崎市防災会議 (共催 稲敷広域消防本部龍ヶ崎消防署)
4 目 的	関係機関が共同して総合的な防災訓練を実施し、災害時における防災活動の円滑化と防災関係機関相互の協力体制を強化し、市民の防災意識の普及啓を図ることを目的として実施します。
5 内 容	【訓練内容】 防災関係機関相互の連携と市民の研修を目的とした「実働訓練」及び、市民が気軽に防災にふれあえる「展示・体験ひろば」の二部構成同時進行型の訓練です。※詳細は、別添プログラムを参照ください。
6 来場者 (対象者)	国、県、公共機関、企業、団体、消防機関など50を超える機関・団体、市内178の自主防災組織および一般見学者など約1,000人の来場者を見込んでいます。
7 セールスポイント	自主防災組織による「初動対応実動訓練」のほか、茨城県防災航空隊の防災ヘリコプターによる「要救助者搬送訓練」および稲敷広域消防本部高度救助隊による「救助訓練」など、これまで同様に行う訓練のほか、新たに、以下の訓練項目およびイベント内容を実施します。 ①市消防団の「水槽車」および「機能別隊」(JA隊・市役所隊)が、初めて訓練に出場。 ②陸上自衛隊東部方面隊第1施設団による「軽門橋(けいもんきょう)敷設訓練」を初めて実施。 ③災害時における「車両移動〔道路啓開(けいかい)〕訓練を初めて実施。 ④国土交通省の「自然災害体験車」「降雨体験車」が、展示体験ひろば初登場。 ⑤まいりゅう風船の初配布。 ※詳細は、別紙 龍ヶ崎市 市民防災フェア2015 新規訓練項目・イベント内容を参照ください。
8 資 料	①龍ヶ崎市 市民防災フェア2015 プログラム ②別紙 龍ヶ崎市 市民防災フェア2015 新規訓練項目・イベント内容
9 担当課	危機管理室 担当者：猪野瀬(いのせ)、鎌田(かまた) 連絡先：0297-64-1111(内線351,348)

龍ヶ崎市 市民防災フェア 2015 新規訓練項目・イベント内容

①市消防団の「水槽車」および「機能別隊」（JA隊・市役所隊）が、初めて訓練に出場します。



この8月6日に、市消防団に配備した最新車両で、6,000リットルの水を積載し、消火栓や防火水槽など、いわゆる消防水利の少ない地域において発生した火災に対して、この積載した水を使用して速やかな消火活動が実施可能です。

なお水槽や配管は、ステンレス製であり錆にも強く、大規模災害などによる上水道断水時には、給水車として、飲料水を提供することが可能になりました。消火活動と給水活動の両面に、活躍が期待される本車両の導入により当市の災害対応能力は、一層の向上が図られたものと考えます。

また、この5月に発足した市消防団機能別隊が、広域火災消火訓練（プログラムNo18）に出場します。市役所隊は、水槽車の活動要員として、同じくJA隊は、市貸与の消防ポンプ車にて、消火活動の任務にあたります。

②陸上自衛隊東部方面隊第1施設団による「軽門橋（けいもんきょう）敷設訓練」を初めて実施します。

当市に架かる橋の安全性が担保できないとの想定により、緊急物資搬送車両を陸上自衛隊東部方面隊第1施設団が展開する「軽門橋」にて、渡河（とか）する訓練を実施します。

（プログラムNo12）

具体的な実施方法は、小貝川市民運動公園内の船着場（スロープ）より、車両1台を実際に搭乗のうえ出発し、会場に隣接する川面を往復し、同じ船着場に帰着します。

（参考写真）伊勢崎市ホームページより 第64回利根川水系連合・総合水防演習の様様



（ボートを前後に連結し、片方の末端に動力をつけたものを、機舟と呼び、この機舟を複数並列に並べ、板を渡して、軽門橋とするそうです。）

なお、第1施設団の車両・人員体制は、以下を予定しています。

- (1) 大型車2台＋牽引車両1台
- (2) 小型車両1台
- (3) 隊員約20人

③災害時における「車両移動〔道路啓開（けいかい）〕訓練を初めて実施します。

昨年11月の災害対策基本法の改正で、災害時に緊急車両の通行の妨げとなる車両を道路管理者が移動できることになったことに伴い、車両移動（道路啓開）訓練を当市と協定を締結するオートリペア イトウが訓練を実施します。（プログラムNo9）

（参考写真）茨城県ホームページより 茨城県土木部防災訓練における同訓練の様様



④国土交通省の「自然災害体験車」「降雨体験車」が、展示体験ひろば初登場

自然災害体験車では、立体映像（3D）や音、振動、においなどで、土石流が発生するまでの予兆現象やその恐ろしさ、避難の大切さなどを体験することができます。（1回あたりの体験者数14人まで、経験時間約8分間）

降雨体験車では、1時間あたり10ミリから大災害につながる300ミリの暴風雨の恐ろしさをスクリーンによる映像、音響および実際に風雨を発生させて体験することができます。（1回あたりの体験者数7人まで、経験時間約5分間）

（参考写真）国土交通省ホームページより 左：自然災害体験車 右：降雨体験車



⑤まいりゅう風船の初配布

市民防災フェア2015ご来場のお子さまをはじめ、希望者にまいりゅう（市消防団仕様）の絵柄が入った風船をプレゼントします。

配布場所：展示体験ひろば「消防PRコーナー」
（※ヘリウムガスではなく、空気を入れます。）

